

科目名	建築施工 I				
担当教員	杉崎 善次		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを産学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	建築現場における現場の進め方や方法など、各職種ごとに学ぶ。前期は建築のしくみから地盤・基礎工事までの流れを学ぶ。工事を通じ建築に必要な専門用語も習得していく。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築施工、配布プリント等				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	建築施工とは・工事契約 ①建築施工の概要と建築のしくみ。(設計→施工の流れ) ②建築物の施工形態を理解する。 ③施工者の選定や工事請負契約等工事管理者の業務		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①の予習		
2	積算 ①建築物の費用に関する概算見積もりと算出方法 ②単価の積み上げによる建築工事全体の価格設定		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
3	施工計画・施工管理 ①施工計画・品質管理・原価管理の必要性と重要性 ②工程計画・工程管理・安全・環境管理の必要性、重要性。		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
4	小テスト①		項目1～4から選択し小テストで理解度の確認、解答→解説を行う。		
5	地盤調査・測量 ①土工学概論に伴う、地盤調査の種類 ②測量機器の種類		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
6	仮設工事 ①工事前準備工事の共通仮設工事・ ②直接仮設工事の違い、 ③確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 確認問題を加え習練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
7	土工学 ①土工学に関する、掘削方法や山留め、排水と必要性 ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 確認問題を加え習練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
8	基礎地盤工事 ①杭・基礎工事の種類、分類など建築物施工の基礎について ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 確認問題を加え習練しより理解度を深める 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
9	小テスト②		項目1～4から選択し小テストで理解度の確認、解答→解説を行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末テストの点に加え、小テスト、授業態度、出席率の内容を総合的に評価 期末試験70%、小テスト20%、授業態度・出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。			施工は建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への展開を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 現場管理に10年、設計業務に10年携わる					

科目名	建築施工 I				
担当教員	杉崎 善次		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを産学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。 4. 建築の基本となる構造躯体の主たる構造、鉄筋コンクリート工事の分野を学ぶ				
学習目標 (到達目標)	ここではその種類の施工方法や製品管理の仕方、材料の種類など詳しく学び、それが理解できる様になる。工事方法を通じ建築に必要な専門用語も習得していく。 また、建築士2級の筆記試験範囲にあたる内容のため、合格点に達する習熟度を目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築施工(ホクサイ出版社)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎地盤工事(地盤工事) ①地盤工事の種類 ②地盤工事の工法の種類や工事方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
2	基礎地盤工事(基礎工事) ①基礎の種類や構造、役目		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
3	鉄筋コンクリート工事(鉄筋コンクリートの概要) ①鉄筋コンクリートの構成、種類、施工手順		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
4	鉄筋コンクリート工事(鉄筋工事) ①鉄筋コンクリートにおける鉄筋の役割と重要性、 ②鉄筋の施工前検査や組み立て方法 ③製品検査について		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
5	鉄筋コンクリート工事(鉄筋工事) ①鉄筋の継手、定着、かぶり厚さの意味 ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 確認問題で、理解度を深める。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
6	小テスト		項目1～5から選択し小テストで理解度の確認、解答→解説を行う。		
7	鉄筋コンクリート工事(型枠工事) ①型枠の役割と構成、加工・組立		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
8	鉄筋コンクリート工事(型枠工事) ①型枠の解体計画・存置期間・検査の方法 ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 確認問題で、理解度を深める。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
9	鉄筋コンクリート工事(コンクリート工事) ①コンクリートの概要と性質、打設のプロセス ②確認問題		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 確認問題で、理解度を深める。 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
10	小テスト		項目7～9から選択し小テストで理解度の確認、解答→解説を行う。		
11	鉄骨工事 ①鉄骨工事の躯体と仕上げ		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
12	工機製作 ①工機製作の流れと接続の注意点、 ②製品検査		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
13	現場の進め方 ①現場進め方の注意点、 ②接合方法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
14	各部詳細について ①鉄骨造の仕上げ ②材料の選定や納まり		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末テストの点に加え、小テスト、授業態度、出席率の内容を評価 期末試験70%、小テスト20%、授業態度・出席率10% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。			施工は建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への展開を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 現場管理に10年、設計業務に10年携わる					

科目名	建築施工 II				
担当教員	木原 陸明		実務授業の有無	○	
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築現場における施工計画とプロセス、管理方法など工事の進め方と、基本的な仕組みを産学や事例を通して学ぶ。 1. 建築施工の概要と建築物の基礎の重要性を学ぶ。 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本を理解する。 3. 講義→小テスト→解答→解説を繰り返すことで重要性を理解する。				
学習目標 (到達目標)	建築現場における現場の進め方や方法について、各職種ごとに学んでいく。 建築の現場特有の専門用語を習得する。 二級建築士の学科試験のうち、「施工」の得点に必要な内容を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①図説 やさしい建築施工 (学芸出版社)				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	仕上げ工事 各仕上げ工事の特徴と工事の進め方の概要		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：各仕上げ工事の種類、特徴、方法を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	①防水工事 ・屋根防水、・屋根工事、・シーリング工事		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	②高層・タイル・石工事 ・湿式工事		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	③建具・ガラス工事 ・金属製建具、・木製建具、・ガラス工事		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	④金属工事 ・軽鋼骨天井下地、・軽鋼骨壁下地		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	⑤内装工事 ・床、・壁、・天井、・各種仕上げ		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	⑥塗装・吹付工事 ・塗膜、・ローラー、・吹付		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	⑦ユニット工事 ・ユニットバス、・その他ユニットもの		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	⑧配管工事 ・吹付工法、・充填工法、・張付工法		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
	⑨電気設備工事 ・電力、・通信、・受電電		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習		
⑩機械設備工事 ・給排水、・衛生、・空調、・昇降機		方法：教科書、資料を使って説明、解説の復習 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①の予習			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
期末試験で評価する。 採点等の提出物がある場合はそれも加味する。 期末試験40% 小テスト20% 授業態度20% 出席状況20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(50点以下)とする。			施工は建築設計に必要な知識として建築基礎知識を理解した上で、設計への展開を広げる。また定期的に小テストを行い習得状況の確認する。また、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う。		
実務経験教員の経歴 現場設計・施工管理業務経験40年					